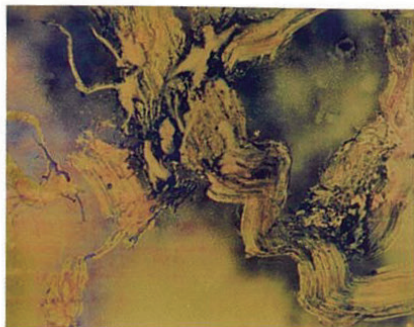




「岩抱き杉」130 × 162cm

菅原健彦展 RUTEN —流転—

昨年 62 歳で急逝した日本画家・菅原健彦の回顧展「流転」が開催される。1962 年東京生まれ、多摩美術大学で日本画を学んだ菅原は、若くして数々の賞を受け注目を集めた。1996 年に山梨へ移住し、神代桜との出会いを契機に、自然が放つ圧倒的な生命の循環と神秘を主題に制作を深化。伝統技法を基盤に、力強さと繊細さを併せ持つ独自の画風を確立した。同展では、2011 年から 2025 年までの代表作を一堂に展示し、自然への畏敬と感動を画面に刻んだ菅原芸術の軌跡を辿る。

1 月 17 日→2 月 8 日
ギャラリーためなが
東京都港区南青山 6-5-39

橋本夏夫 “UNTITLED” 展

長年、アルミニウムを素材にした作品を制作する橋本夏夫。「学校給食のアルマイト食器の熱伝導の良さをよく覚えている」。こう振り返る作家は、素材としてのアルミニウムに嗜好的なリアリティを感じたのもこの共有してきた時間の意味や必然だったのだろう、と語る。吹き抜けのあるギャラリー空間に、どのように展示を構成するのか注目だ。

2 月 26 日→3 月 22 日
gallery21yo-j
東京都世田谷区等々力 6-24-11



橋本夏夫 (untitled)
アルミニウム 106 × 96 × 3cm